

## ⑫ 公開特許公報 (A)

平2-161063

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>  
E 04 F 19/02識別記号  
C

⑭ 公開 平成2年(1990)6月20日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 出隅構造

⑯ 特願 昭63-316698

⑰ 出願 昭63(1988)12月14日

⑱ 発明者 石川 淳 山形県東根市三日町2丁目8番13 アイジー工業株式会社  
内

⑲ 出願人 株式会社アイジー技術 研究所 山形県東根市三日町2丁目8番13

## 明細書

## 1. 発明の名称

出隅構造

## 2. 特許請求の範囲

(1) 乾式工法によって形成されたヨロイ張り状壁体の出隅部において、2つの台形状の化粧片をほぼし字状にした化粧面部と、該化粧面部の上端には角部近傍のみを上方へ突出させた固定部と、該固定部の部分を除き両側縁を含む範囲で外方へ突出させた係合用フランジとを有し、また化粧面部の下端には内方に屈曲した底面と、該底面の先端を上方に屈曲した係止片とからなる係止部を有するスタート用出隅と、前記スタート用出隅と同一の化粧面部、固定部、係合用フランジを有すると共に、かつ化粧面部の下端には内方に屈曲した底面と、該底面の両端をはざ状に屈曲した係合舌片とからなる連結部を有する中間用出隅とを用い、前記ヨロイ張り状壁体の出隅部の最下段をスタート用出隅の係止部で抱持と共に固定部で壁下地に固定し、2段目以降は、下段の係合用フラン

ジを中間用出隅の連結部の底面で被覆すると共に、該係合用フランジの両端を連結部の係合舌片で挟持し、固定部を壁下地に固定していることを特徴とする出隅構造。

## 3. 発明の詳細な説明

## (産業上の利用分野)

本発明は、ヨロイ張り状壁体の出隅構造に関するものである。

## (従来の技術)

従来の乾式工法によりヨロイ張り状壁体を形成した際の出隅部は、第7図(a)に示すように、ほぼ台形状の化粧片b<sub>1</sub>、b<sub>2</sub>をし字状にした化粧面部bと、化粧片b<sub>1</sub>、b<sub>2</sub>の上部に形成した固定部cと、化粧片b<sub>1</sub>、b<sub>2</sub>の下部をし字状に屈曲した底面dと係止片eとから形成されている出隅aを、第7図(b)に示すように乾式壁材を配設したあと、下段より1段ずつ装着した構造とするのが一般的であった。

## (発明が解決しようとする課題)

しかしながら、上記出隅構造では、乾式壁材の

化粧面に段差を形成して、第2図(a)に示すように2段、あるいは複数段のものを用いた場合、乾式壁材の中間の段差部分に、出隅aの係止片eを係止することができない欠点があった。

(課題を解決するための手段)

本発明はこのような欠点を除去するため、出隅として、台形状の2つの化粧片をほぼL字状にした化粧面部の上端に角部近傍を上方に突出させた固定部と、固定部の部分を除き両側縁を含む部分で外方に突出した係合用フランジを形成し、また化粧面部の下端に、内方に屈曲した底面と、底面の先端を上方に屈曲した係止片とからなる係止部を有するスタート用出隅と、化粧面部、固定部、係合用フランジを有し、かつ化粧面部下端には前記係止部と同様の底面と、底面の両端をはぜ状に屈曲した係合舌片からなる連結部を有する中間用出隅とを用い、ヨロイ張り状壁体の出隅部の最下段にスタート用出隅を用い、2段目以降には中間用出隅を用いて形成すると共に、各出隅間に係合用フランジを係合舌片で挟持して連結させること

背面に各種シート状物からなる裏面材6を貼着したサンドイッチ板、あるいは、図示しないがセメント、コンクリート、粘土、GRC、ALC等を押出成形、バッチ成形して形成した無機質板である。なお、壁板Aは化粧面2が1段、あるいは複数段(図では2段)の段差状とするか、壁下地に配設した際にヨロイ張り状となるものである。スタート用出隅Bは第2図(b)に示すようなものであり、主に前記したような金属薄板、合成樹脂板からなるものである。すなわちスタート用出隅Bは、ほぼ台形状の化粧片7a、7bをL字状にした化粧面部7と、化粧片7a、7bの上端の角部近傍を上方に突出させた固定部8と、化粧片7a、7bの上端で、固定部8を除き、少なくとも側端縁を含む範囲で外方に突出した係合用フランジ9を有し、また、化粧面部7の下端には、化粧片7a、7bの下端を内方に屈曲した底面11と、底面11の先端を上方へ屈曲した係止片12とからなる係止部10を有するものである。このスタート用出隅Bは出隅部において、土台等の壁材Aの張り始めの段の出隅部を形成す

により、壁体を形成する乾式壁材が複数段でも形成しうる出隅構造を提案するものである。

(実施例)

以下に図面を用いて本発明に係る出隅構造について詳細に説明する。第1図は上記出隅構造の外観を示す部分外観図で、Aは乾式壁材(以下、単に壁材という)、Bはスタート用出隅、Cは中間用出隅である。すなわち壁材Aはヨロイ張り状壁体を形成するものであり、例えば第2図(a)に示すように、表面処理鋼板、亜鉛・ニッケル合金メッキ鋼板、アルミ・亜鉛合金メッキ鋼板(商品名ガルファン、ガルバリウム鋼板、スーパージング)、アルミニウム板、アルミニウム合金板、鋼板、クラッド鋼板、制振鋼板等の1種からなる金属板(平板、エンボス加工板を含む)、または合成樹脂板からなる表面材1で化粧面2、雄、雌型連結部3、4を形成し、表面材1の背面に、合成樹脂発泡体、石膏ボード、ロックウール、グラスウール、シージングボード、木毛セメント板、セメント等からなる芯材5を充填し、必要に応じて芯材5の

るものであり、第3図(a)に示すように化粧面部7は壁材Aの端部を被覆し、かつ、壁材A間の隙間を被覆するものである。また係止部10は壁材Aの下端を抱持し、スタート用出隅Bの下端部での固定として機能するものである。さらに固定部8はスタート用出隅Bの上端において、外部に露出しない位置で釘等の固定具によって固定する部分である。なお、8aは固定具用孔であり、必要に応じて形成されるものである。さらに係合用フランジ9は、後述する中間用出隅Cの係合舌片18に挟持されることにより、中間用出隅Cの下端の固定に役立つと共に、壁材Aの段差部分での再返しとしても機能するものである。中間用出隅Cはスタート用出隅Bを用いる最下段以外の出隅部を形成するものであり、第2図(c)に示すように、スタート用出隅Bと同様の化粧面部13、固定部14、固定具用孔14a、係合用フランジ15を有すると共に、化粧面部13の下端には、化粧片13a、13bのそれぞれを内方に屈曲した底面17と、底面17の側端に、下はせ状に屈曲した係合舌片18とからなる連結部

16を有するものである。この化粧面部13、固定部14、係合用フランジ15は、それぞれスタート用出隅Bの化粧面部7、固定部8、係合用フランジ9と同様の機能を果たし、また、底面17は壁材Aの段差部分、および下段のスタート用出隅Bの係合用フランジ9、あるいは中間用出隅Cの係合用フランジ15を被覆し、意匠性を向上させると共に、各係合用フランジ9、15に雨返しの機能を付加するものである。また、係合舌片18は、第3図(b)に示すように底面17によって被覆される係合用フランジ9、15(ここでは係合用フランジ9)の側端を挟持するものであり、中間用出隅Cの下端を固定するためのものである。なお、第3図(b)ではスタート用出隅Bと中間用出隅Cの連結状態を示しているが、中間用出隅C同士の連結も同様に行う。このように中間用出隅Cの固定は壁材Aの連結部分と無関係に行うことができ、各種段数の化粧面2を有する壁材Aを用いた壁体の出隅部分を形成することができる。

以上説明したのは本発明に係る出隅構造の一実

施例にすぎず、第4図(a)～(e)～第6図(a)～(f)に示すようなスタート用出隅B、中間用出隅Cを用いることも可能である。すなわち第4図(a)～(e)はスタート用出隅Bの係止部10の変形例であり、各々壁材Aの抱持力の強化を図ったものである。また第5図(a)～(f)は固定部8、14の変形例であり、各々固定部8、14の強度を補強し、釘打設の際の変形を抑制するようにしたものである。さらに第6図(a)～(f)は係合用フランジ9、15の変形例である。なお、第3図(b)に点線で示すように化粧面7、13の背面にコーティング材、パッキング材等の防水シール材19を配設することも可能である。

#### (発明の効果)

上述したように、本発明に係る出隅構造によればスタート用出隅の下端の固定のみを壁材に依存し、中間用出隅は固定部による固定と下段のスタート用出隅、中間用出隅との連結による固定のため、壁材が複数段でも出隅部を形成することができる。また、各スタート用出隅、中間用出隅は上下端で固定されるため、離脱、剥落を防止するこ

とができる。しかも、係合用フランジが雨返しの機能を果たし、防水性にすぐれた出隅構造となる。等の効果、特徴がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

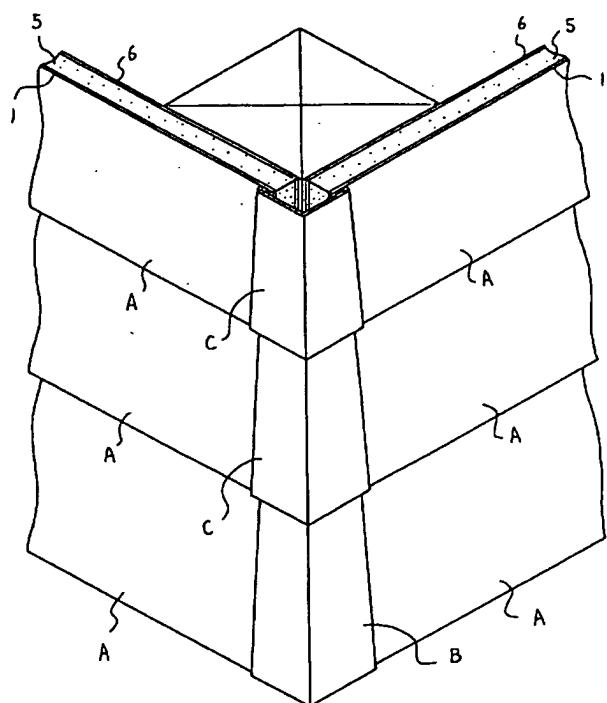
第1図は本発明に係る出隅構造の外観を示す部分外観図、第2図(a)～(c)は上記出隅構造に用いられる部材である乾式壁材、スタート用出隅、中間用出隅の代表例を示す説明図、第3図(a)、(b)は上記出隅構造の部分説明図、第4図(a)～(e)～第6図(a)～(f)はスタート用出隅、中間用出隅の変形例を示す説明図、第7図(a)、(b)は従来例を示す説明図である。

A・・・乾式壁材、B・・・スタート用出隅、C  
・・・中間用出隅。

特許出願人 株式会社アイジー技術研究所

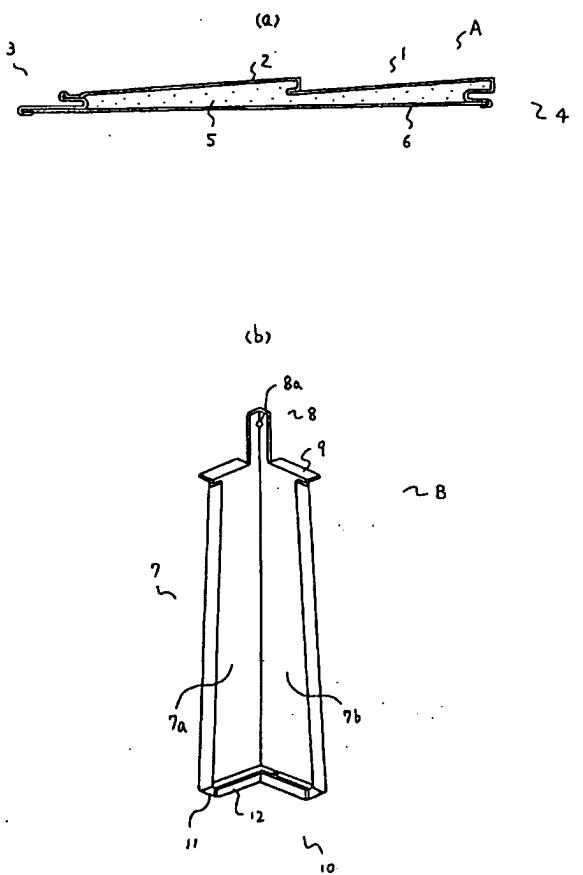


第 1 図



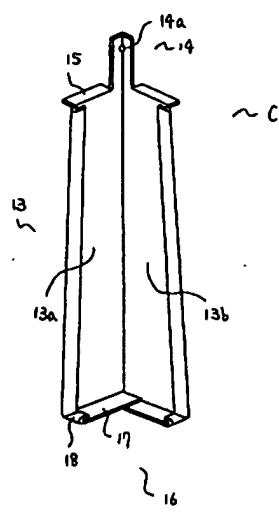
A . . . 乾式壁材  
B . . . スタート用出隅  
C . . . 中間用出隅

第 2 図



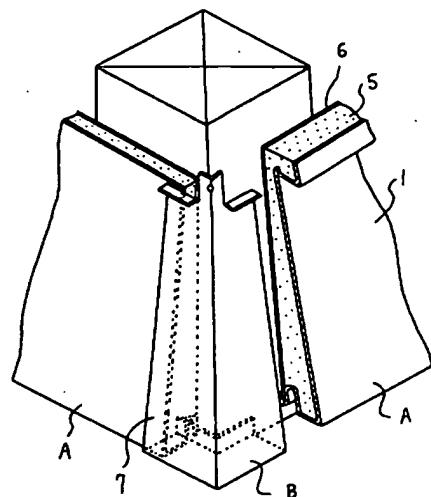
第 2 図

(c)



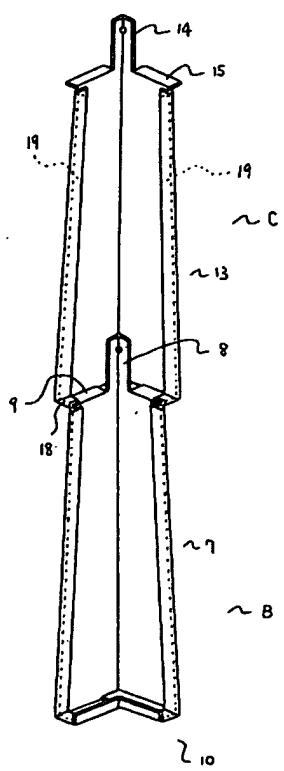
第 3 図

(a)

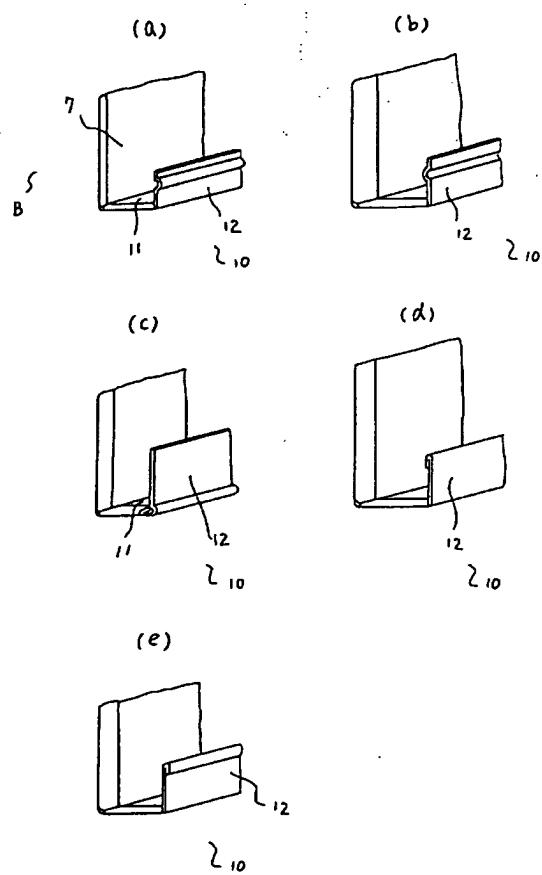


第 3 図

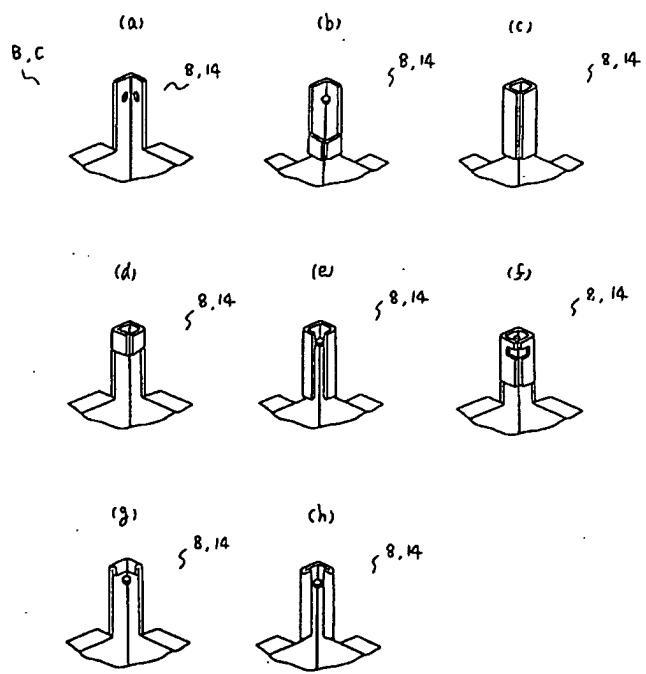
(b)



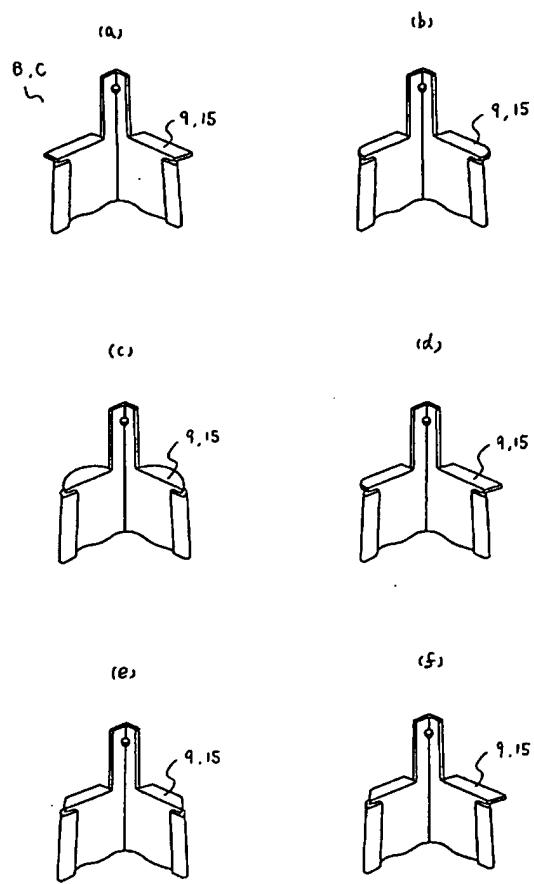
第 4 図



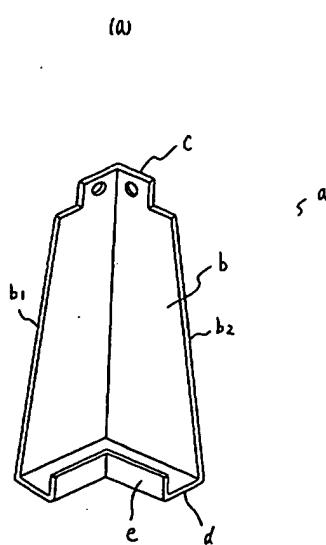
第 5 図



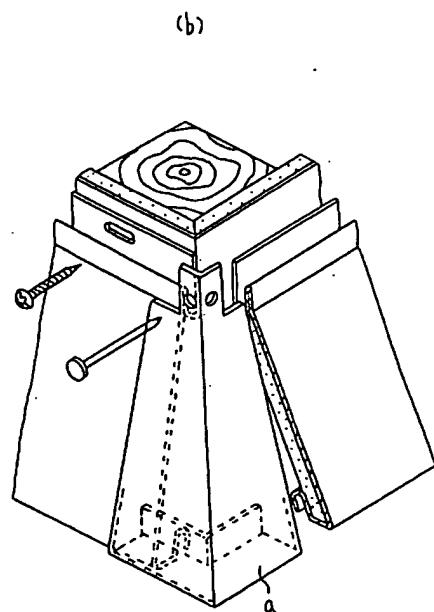
第 6 図



第 7 図



第 7 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**